



特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

第 13 回通常総会議案書

2018 年 2 月 24 日(土)13 時～14 時 30 分

於)NSビル 203 号室(東京都千代田区神田猿樂町 2-2-3)

総会議事

1. 総会成立の確認
2. 総会開会挨拶
3. 議長選出
4. 書記、議事録署名人の選任
5. 報告事項
6. 審議事項
 - 第一号議案 2017 年度事業報告
 - 第二号議案 2017 年度決算報告
 - 第三号議案 2018 年度事業計画
 - 第四号議案 2018 年度予算
 - 第五号議案 定款変更(住所・公示方法の変更)
7. 行事
 - 活動紹介
8. 議長解任
9. 総会閉会挨拶

■第一号議案 2017年度事業報告

1、事業実施の報告	3
2、事業実施に関する事項	
—コンテンツ制作に係る事業—	
（1）市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作	4
（2）人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介	8
—市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—	
（3）子ども・市民のための映像制作教育	8
（4）市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり	9
（5）社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援	9

■第二号議案 2017年度決算報告

活動計算書	11
貸借対照表	12
財産目録	13
注記	14
2017年度監査報告書	16

■第三号議案 2018年度事業計画

1、事業実施の方針	17
2、事業実施に関する事項	
—コンテンツ制作に係る事業—	
（1）市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作	18
（2）人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介	18
—市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—	
（3）子ども・市民のための映像制作教育	18
（4）市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり	19
（5）社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援	19

■第四号議案 2018年度予算

■第五号議案 定款変更

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

2017年度 事業報告書

1、事業実施の報告

2017年度は、国内外を問わず、「報道の自由」をめぐる様々な出来事が起きた。米国では、トランプ政権が誕生し、「ポストトゥルース」と呼ばれる時代が到来。「フェイクニュース」によって世論が左右される危うい時代状況に陥っている。

日本でも安倍政権の下、「報道の自由度ランキング」は史上最悪の72位にダウン。現代の「治安維持法」とも称される「共謀罪(テロ等準備罪)」が強行採決によって可決成立し、「プライバシー」に関する国連人権理事会特別報告者ジョセフ・ケナタッチ氏が懸念を表明したほか、同じく国連人権理事会特別報告者デビッド・ケイ氏は「報道の自由」の改善を求めて日本政府に勧告した。さらに11月には国連人権理事会のUPR(普遍的定期審査)で初めて、「報道の自由」に関する懸念が表明され、放送行政の独立などが勧告された。

このような状況下、OurPlanet-TVでは、「共謀罪」や「表現の自由」に関わる報道にも力を割いたほか、他のメディアが十分な取材をしていない「五輪」や「福島第一原発事故」に伴う問題の取材に力を入れた。

また2017年度は、表現形態としてはじめて、VR(バーチャルリアティー)の活用に挑戦。2013年から継続的に取材している南相馬市の小高中学校の仮設校舎をVRで記録し、WEB上に再現するプロジェクトに取り組んだほか、5回目を迎える「福島映像祭」の関連イベントとして、「仮の住処を仮想体験するー被災の記憶・継承と共感」と題する展示イベントを開催。小高中学校の仮設校舎生活をVRで体験できる展示を行ったほか、オランダの研究者が企画・開発した「仮設住宅」生活を追体験するプロジェクト「Virtual Reality Game: PERMANENT」も展開した。東京にいながらにして、「仮設住宅」や「仮設校舎」を体験できる試みには、参加者の満足度も高く、また OurPlanet-TV の新機軸として、大変有意義な事業となった。

一方、映像ワークショップは昨年度に引き続き、受講生の参加が定員に満たず、事業の見直しに迫られている。また計画した単発のコースが全て開催不能となった。事業の進め方を再考していきたい。

2017年度は OurPlanet-TV が認定 NPO 法人となって2年目となったが、映像の受託制作がふるわなかったこともあり、財政的には厳しい状況に置かれている。活動開始してから16年目を迎えるが、事業の進め方やあり方を含め、抜本的な見直しを行わなければ、五輪開催年である2020年まで活動を継続することも難しい状況にある。人々に求められるメディアとなるよう、今年度の反省を来年につなげていきたい。

代表理事 白石 草

- (1) 会員数 2018年1月19日現在
正会員 24名 / 賛助会員 個人 241名(新規34名) / 団体 1
- (2) 従業員の状況
*フルタイムスタッフ3名
- (3) 活動の拠点
*東京事務所

2、事業実施に関する事項

—コンテンツに制作に係る事業—

(1) 市民の視点や人権・環境を考慮にいたした番組の制作

独自企画番組の制作および配信

2017年度は、独自取材による映像配信は88本と、昨年よりも33本増えた。主に「原発」「共謀罪」「東京五輪」「都市の再開発」「野宿者」「ドキュメンタリー映画」などに関するテーマを中心に配信した。

今村元復興大臣の記者会見映像は、大きな反響を呼びその後の辞任につながる契機となった。また、福島原発事故に伴う健康影響に関する取材では、ソーシャルジャスティス基金から助成を受けて実施していた活動「SOYプロジェクト」の成果物として、岩波ブックレットより書籍を刊行。シンポジウムを開催し、社会への共有を図った。

このほか、「共謀罪」成立前の市民の動きなどを配信。五輪に関する番組は、作業員の過労死が起きた新国立競技場建設関連や、五輪に便乗した再開発による環境破壊、開催に反対する市民の声を伝えた。



【事業内容】

映像作品 (ContAct/NewsClips/Documentary)

配信番組は計88番組

◆ ContAct 5本

- 1月18日 『マスコミが伝えなかった「リオ五輪」反対運動』
- 5月12日 『音のない家族のかたち～映画「きらめく拍手の音」』
- 9月 8日 『証言で紡ぐ成田闘争～「三里塚のイカロス」代島監督インタビュー』
- 11月9日 『デジタル監視と人権～エドワード・スノーデン氏インタビュー』
- 12月22日 『あなたも監視されている～スノーデンの暴露とは』

◆ NewsClips 83本

- 1月13日 『「とあるユートピアの物語」～アレクシエービッチ講演』
- 1月22日 『「東京五輪おことわり」五輪返上を訴える市民団体結成』
- 1月31日 『県外で4割が重症例～甲状腺がん子ども基金給付53人』
- 2月 2日 『白血病の元作業員の裁判はじまる』
- 2月10日 『神奈川県「費用負担しない」～五輪の仮設競技場の先見えず』
- 2月15日 『映画「すべての政府は嘘をつく」トークイベント金平茂紀×白石草』
- 2月17日 『2巡目検討へ評価部会を開催へ～福島・甲状腺がん』
- 2月22日 『膨らむ五輪を批判～市民が小池都知事に質問書』
- 3月 7日 『「女が生きるのマジでつらい！」国際女性デー、渋谷でデモ』
- 3月 9日 『支援打ち切り「困窮強えられる」原発被害者3団体会見』
- 3月14日 『復興大臣「福島県へ帰還を」～「故郷を捨てるのは簡単」の真意』
- 3月14日 『「FAX以降、カミカゼが吹いた」森友学園・籠池理事長』
- 3月24日 『【VR映像】新国立競技場、工事現場公開』
- 3月30日 『今月末で住宅支援打ち切り、原発避難者「被害者の切り捨てだ」』
- 3月30日 『184人以外にも未公表の甲状腺がん～事故当時4歳も』
- 3月31日 『未公表の4歳児へ給付～甲状腺がん子ども基金』
- 3月31日 『渋谷区が予告なく公園封鎖～宮下公園』
- 4月 4日 『自主避難は「自己責任」～復興大臣明言』
- 4月 6日 『今村復興相、「自己責任」発言を撤回するも、辞任否定』
- 4月 9日 『議会もパリティ(男女均等)に、パリティ宣言採択』

4月10日 『川俣町議会が復興大臣の辞任要求～抗議殺到』
4月11日 『甲状腺がんの子4人に1人が進路に影響～支援団体アンケート』
4月13日 『「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟」創設記者会見』
4月17日 『江戸川区で甲状腺検査～東京都内で初』
4月18日 『費用負担の見通したたず～東京五輪の仮設整備費』
4月21日 『「もういいよ」～復興相が再び質問打ち切り』
4月25日 『米原子力空母、放射性廃棄物を搬出～横須賀』
5月 9日 『吉野復興相「子ども・被災者支援法活用する」～今村氏との違い強調』
5月10日 『五輪中のイベント規制～「開催都市契約書」が公開』
5月12日 『小池都知事、五輪の運営費負担も5月中決定を表明』
5月19日 『「共謀罪」絶対に成立させない～国会前で抗議の声』
5月23日 『国連特別報告者の書簡に関する記者会見』
5月23日 『「共謀罪は必ず廃案！」衆院通過に国会前で怒りの声』
5月31日 『都外運営費350億円先送り～五輪費用負担』
6月 2日 『放送行政は政府から独立を～国連特別報告者が来日講演』
9月12日 『福島調査・甲状腺がん疑い2巡目だけで59人～計174人』
6月 3日 『甲状腺がん190人～公表データ以外の把握、検討へ』
6月 9日 『甲状腺検査の専門家会議～環境省が全額負担』
6月 9日 『【床に黒い塊～プルトニウム飛散の可能性【大洗事故】』
6月12日 『「共謀罪は絶対廃案に」反対署名153万筆提出』
6月13日 『全国2万2000戸の公営住宅で石綿～被害相談開始』
6月15日 『「怪文書」じゃなかった！～文科省「総理のご意向」文書確認』
6月20日 『世界難民の日「外国人の人権守れ」法務省に申し入れ』
6月27日 『「保養」に公的支援を～福島の母親ら政府に訴え』
6月29日 『「東電原発事故刑事裁判」はじまる～津波対策をめぐり新証拠ぞくぞく』
7月13日 『「再審請求中の死刑執行、許されない」人権団体が抗議』
7月14日 『「戸籍開示やめて」人権団体が声明』
7月20日 『「日本における報道の自由」国境なき記者団会見』
7月22日 『「3・11後の子どもと健康～保健室と地域に何ができるか？」』
7月22日 『福島県外の原発被害仲介打ち切り～ADRで異例決定』
8月 1日 『宮下公園の解体工事着工に野宿者ら抗議』
8月24日 『「過労死させるな」大成建設前で若者ら抗議～新国立競技場建設』
8月30日 『存在していた！福島医科大「甲状腺がんデータベース」』
8月31日 『小児甲状腺がんのDNA解析～研究拠点は長崎大』
9月 1日 『都知事の追悼文なしに参列者怒り～朝鮮人犠牲者追悼式』
9月 6日 『福島の甲状腺がん解明へ～新潟県「健康分科会」検討開始』
9月12日 『鈴木五輪大臣が新国立競技場 建設現場を視察』
9月15日 『檜葉の小中学校で初の原発避難訓練』
9月21日 『「ふるさと喪失」認めるも、国の責任は認めず～原発避難者訴訟』
9月25日 『「原子力の平和利用を担うのは規制委の役割」田中前委員長』
9月25日 『福島原発事故後の基準値を検証へ～放射線審議会』
10月4日 『甲状腺がん患者への支援100人へ～7人は再手術』
10月5日 『福島原発事故で国の責任を認める判決～県外にも賠償命令』
10月13日 『新国立競技場の観客席を公開』
10月20日 『福島の小児甲状腺がん194人に～手術は154例』
10月25日 『「甲状腺検査のあり方」検討はじまる～国際がん研究機関』
11月1日 『福島で甲状腺を考える市民公開講座～質疑時間はなし』
11月8日 『横浜「ホテルの生息地」再開発めぐり～住民投票めざし署名運動』
11月13日 『「宮下公園ホテル化おかしい！」市民ら申し入れ』
11月14日 『「工期は見直さない」新国立競技場の過労死問題で』
11月15日 『「メディアの独立」懸念～国連人権理事会が日本を審査』
11月16日 『「追い出し裁判は不当」山形の自主避難者が会見』

11月20日『五輪選手村の都有地「9割引きの投売りだ」住民ら主張』
 11月21日『「日本政府は勧告受け入れを」人権 NGO が緊急集会』
 11月26日『ブラック企業大賞～NHK など9社をミネート』
 11月27日『「貧困ビジネス使うな」渋谷の野宿者らデモ』
 11月29日『新潟水俣病、逆転全面勝訴～東京高裁』
 11月29日『鈴木元氏が部会長へ～甲状腺がんの健康影響評価』
 12月4日『五輪に向け都会のオアシスで森林伐採～住民が監査請求』
 12月5日『メディアを市民の手に～韓国市民放送の挑戦』
 12月13日『伊方原発3号機、運転差し止め～広島高裁』
 12月14日『「今、問われるメディアの独立と報道の自由」』
 12月14日『生活保護切り下げ方針に抗議の声』

出版記念シンポジウム「3・11後の子どもと健康～保健室と地域に何ができるか？」

ソーシャルジャスティス基金から助成を受け、福島原発事故に伴う健康影響に関する調査・取材活動「SOYプロジェクト」を実施。その成果物として、岩波ブックレットより書籍を刊行した。出版記念シンポジウムを7月22日に専修大学にて開催し、約70人が参加した。



福島映像祭2017

第5回目となった「福島映像祭」を9月16日～22日の1週間、ポレポレ東中野にて行い、のべ約600人が来場した。福島の津波被害を描いた『Life 生きてゆく』など、5つのプログラムを劇場で上映。毎年恒例となっている、一般公募したビデオ・写真を上映するイベント「わたしが伝える福島」では、普段は給食調理員として働く女性が、避難先で苦悩しながらも新たな一歩を踏み出す双葉町民にカメラを向けた作品を含む3作を上映。今回は初めて、写真のスライドショーで構成されたクリップも上映し、好評を得た。また、原発事故後「仮設校舎」で学校生活を送った南相馬市立小高中学校にフォーカスし、現校長の荒木清隆先生と、事故当時、教頭だった荒木幸子先生を福島から迎え、ともに6年間を振り返るトークイベントも開催した。

今年とは新たな取り組みとして『福島・VR企画展「仮の住処」を「仮想体験」する—被災の記憶・継承と共感—』を9月29日～10月1日、ii-BRIDGE(飯田橋)にて開催。南相馬市立小高中学校の仮設校舎を、バーチャルリアリティ技術を用いて記録・再現した「仮設校舎の記憶～福島県南相馬市立小高中学校」と、原発被災者の暮らす「仮設住宅」で展開される仮想現実ゲーム「Virtual Reality Game: PERMANENT」の2つの企画を展示した。来場者は3日間で約90人。

【福島映像祭2017概要】

<映画上映>

『福島 生きものの記録 シリーズ5～追跡～』(2017年/95分/監督:岩崎 雅典)
 『被ばく牛と生きる』(2017年/104分/監督:松原 保)
 『Life 生きてゆく』(2017年/115分/監督:笠井 千晶)
 『フクシマ・モナムール』(2016年/108分/監督:ドリス・デリエ)
 『怪物君 詩人・吉増剛造と震災』(2016年/60分/監督:伊藤 憲) *特別プログラム
 『ベラルーシ再訪2017』(2017年/35分/監督:本橋 成一) *特別プログラム

<イベント>

9月16日 市民部門上映&トーク「わたしが伝える福島」

9月16日 上映&トーク「仮設校舎の6年を経て～南相馬市立小高中学校の記憶」

9月18日 上映&トーク「福島中央テレビの現場から」



【福島・VR企画展「仮の住処」を「仮想体験」する―被災の記憶・継承と共感―概要】

『仮設校舎の記憶～福島県南相馬市立小高中学校』制作:OurPlanet-TV

360° すべてを撮影するカメラで、仮設校舎を記録保存。VRゴーグルを装着し「バーチャル仮設校舎」を体験する展示企画。原発事故によって居場所を転々としながらも懸命に生きる子どもたちの姿と、今はすでに解体され、無くなってしまった「仮設校舎」の思い出を再現した。

『Virtual Reality Game: PERMANENT』制作:Martijn Kors/Rutger van Teutem

原発被災者の暮らす「仮設住宅」で展開される仮想現実ゲーム。VRゴーグルを装着し、コントローラーを手に、約15㎡のスペースを自由に歩き回りながら体験。原子力問題への関心を高めるとともに、体験することで「共感」を促すことを目的とした。



ふくしまのこえ

過去に掲載した制作者に呼びかけるなどして、新たに6つのビデオを掲載した。震災、原発事故から時間が経過するにつれ関心の低下もあり、作品募集に課題が残った。

『Endlager(最終処分場)』(11分/制作:国本隆史・Renato Vazquez)

『Fukushima Kids Dolphin Camp 2014』(25分/制作:レオ ペレガッタ)

『泉智仁 法話と太鼓―希望を未来へ』(2分/制作:岩崎孝正)

『相馬野馬追 まつりの準備』(3分/制作:岩崎孝正)

『5年目のホットスポット 福島市で20マイクロ超え』(9分/制作:フクシマン・マサ)

『Welcome to Fukushima Aizu Ouchi-jyuku Japan』(1分/制作:河野 督)

DVD販売

販売数の伸び悩みもあり、在庫処分セールを実施し販売促進の努力をした。

- ・「チェルノブイリ28年目の子どもたち」(2,000円)販売枚数 24枚
- ・「チェルノブイリ28年目の子どもたち2」(2,000円)販売枚数 3枚
- ・「チェルノブイリ28年目の子どもたち2本セット」(5,000円)販売枚数 20枚
- ・「飯舘村 わたしの記録」(一般3,240円/ライブラリ21,600円)販売枚数19枚

自主上映

主に3月を中心に上映イベントが開催された。「東電テレビ会議」は、大きな注目を集めた福島原発刑事訴訟の初公判の際、福島原発刑事訴訟支援団の主催で参議院議員会館講堂にて上映された。

【自主上映実績】

「東電テレビ会議 49時間の記録」

- ・ 福島県会津若松市 『2017原発のない福島を！会津地区集会』主催：会津地区平和フォーラム
- ・ 新潟県柏崎市 『et cinema vol.35』主催：et cinema
- ・ 東京都千代田区 『福島原発刑事訴訟支援団の集会』主催：福島原発刑事訴訟支援団
- ・ 福島県会津若松市 『第10回平和まつり』主催：第10回平和まつり実行委員会

「飯舘村 わたしの記録」

- ・ 千葉県千葉市 『福島問題を考えるフォーラム2017』主催：福島フォーラム実行委員会

(2) 人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介

映像コンテンツの翻訳

高木基金の助成を得た、「東電テレビ会議～49時間の記録」の英訳化がようやく完成した。4時間半のバージョンのほか、100分の短い英語版も制作。また上映機会がないが、今後につなげたい。

—市民の情報発信（パブリック・アクセス）に係る事業—

(3) 子ども・市民のための映像制作教育

映像ワークショップ

【事業内容】

春と秋に3ヶ月のコースを、夏は3日間の集中講座を開催した。参加者の年齢層は20代から50代まで幅広く、大学生から会社員、新聞記者、ライター、ナレーター、大学の教員など多様な顔ぶれとなった。夏は北海道や長野、大阪、福井など遠方からの参加者が大半となった。一方で、単発講座は日程設定がうまく行かずに開講できず、また昨年同様に集客に課題が残った。映画監督の土屋豊さんを講師に迎えた長期映像制作ワークショップ「ビデオのアトリエ」は、受講生の要望から追加講座を開講し、現在、受講生が長編ドキュメンタリー制作に取り組んでいる。

また、この他、東京新聞からの依頼により記者向けの映像制作ワークショップを開催した。

【実施実績】

◆入門編

* 春期映像制作ワークショップ：4月～6月 受講者数：4人
完成作品：「ビキナーズラック」

*【3日間集中】夏期映像制作ワークショップ：7月 受講者数：8人
完成作品：「えほんのおうちでお茶を飲もう」「USED切手の柚子堂」

* 秋期映像制作ワークショップ：10月～12月 受講者数：4人
完成作品：「いまは夢」

◆実践編

* ビデオのアトリエ追加講座：5月～2018年1月 受講者数：5人

◆講師派遣

* 東京新聞 記者向け映像制作ワークショップ（1日講座）：4月・8月



(4) 市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり

メディアセンター

【事業内容】

引き続き日本ビジュアルジャーナリスト協会(JVJA)、アジアプレスがメディアカフェの常駐利用会員となっているほか、新たにNPO法人独立映画鍋が会員となり、安定した収入源となっている。

1月にミニ上映会1コインサロンを開催し、「リニア新幹線問題」の作品を上映し、映像制作者の交流などを行った。機材貸し出しなどの課題は、ウェブサイトを改善することなどで利用者増を目指したい。



アドボカシーおよびキャンペーン活動

【事業内容】

共謀罪に関しては、TBSの金平茂紀氏とフリージャーナリストが呼びかけ人を務めていたジャーナリスト・表現者による共謀罪反対キャンペーン「共謀罪は絶対反対です」の事務局を担い、サイトの構築・Facebookの管理その他、情報発信分野において関与した。

国連人権理事会の勧告等については、報道以上の取り組みは行えなかったものの、研究者や他団体への連携によるキャンペーンなどを模索しているところである。放送行政の国家管理問題やNHKの受信料問題など、日本のメディアの特殊性を社会に広く周知するために、準備を進めているところである。

12月には、韓国のパブリックアクセスチャンネルRTVと交流を持ち、講演会を実施した。言論弾圧が厳しかった韓国における権利獲得のプロセスは大変参考になり、今後、さらに交流を強化したい。

RTV来日記念講演「メディアを市民の手に～韓国市民放送の挑戦」

RTVで事務局長を務める金炫燧さんの講演イベントを12月5日に神保町ひまわり館にて実施。市民が主体となって発信するダイナミックなメディアについて、韓国の事例を学び、24人が参加した。



(5) 社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

映像コンテンツなどの受託制作

【事業内容】

受託制作の分野では、多くの団体から相談を受けたものの、受託に結びつくものがなく、結果的に収入が大幅に減少した。映像制作のリソースを独自の取材に集中させるべきか、受託制作に配分すべきは大変悩むところであるが、財政全体を考慮すると、現時点で、受託制作を縮小させることは難しく、来年度は、認定NPO団体などを対象に、マーケティングや営業活動を展開していくことが必要と言える。

- ◆ 城南信用金庫(よい仕事おこしフェア中継/講演会ライブ中継等)
- ◆ 脱原発弁護団『ここが知りたい!脱原発裁判』

組織

ファンドレイジング

会員への連絡をこまめにする事で会費の徴収を強化、また、個別に入会案内を送るなどして、会費収入は目標を達成した。助成金は5件、400万円以上を獲得した。寄付は年末のキャンペーンで150万円を集めたものの、年間のファンドレイジング計画には課題が残った。

- ◆ 新規入会者名 34名（賛助会員個人）
- ◆ 寄付総額 460万円以上 / 寄付者 360名以上
 - 2万～5万円未満 28名
 - 5万～10万円未満 18名
 - 10万円以上 13名（内3名は1年に2回、ほか10名は継続寄付者）

【助成金実績】

- ・ ベネッセ子ども基金(南相馬市小高中学の子どもたちとの映像記録)180万円
- ・ LUSHチャリティバンク(南相馬市小高中学の子どもたちとの映像記録)120万円
- ・ アクトビヨンドトラスト(福島県民健康調査ウォッチ)30万円
- ・ オラクル有志の会ボランティア基金(福島映像祭)60万円
- ・ オランダ大使館(福島・VR企画展)30万円

スタッフ体制

昨年に引き続きフルタイムスタッフは3人体制となった。インターンは1名を受け入れた。

平成29年度 活動計算書			
平成29年1月1日から 平成29年12月31日まで			
特定非営利活動法人OurPlant-TV			
(単位：円)			
科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員受取会費	190,000		
賛助会員受取会費	2,250,000	2,440,000	
2 受取寄附金			
受取寄附金		4,665,872	
3 受取助成金等			
受取助成金		4,240,000	
4 事業収益			
市民の視点にたったメディア活動やメディア教育、および情報発信支援に係る事業収益		7,159,590	
5 その他収益			
受取利息	48		
雑収入	608,241	608,289	
経常収益計			19,113,751
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
給料手当	7,766,276		
法定福利費	1,161,484		
福利厚生費	96,430		
人件費計	9,024,190		
(2)その他経費			
売上原価	74,284		
通信費	558,692		
荷造運賃	3,139		
水道光熱費	271,087		
旅費交通費	1,340,243		
広告宣伝費	28,901		
接待交際費	10,586		
会議費	149,712		
事務用消耗品費	6,057		
備品消耗品費	203,701		
新聞図書費	107,864		
印刷経費	184,966		
修繕費	155,499		
WEB構築費	22,680		
地代家賃	1,741,824		
保険料	35,760		
外注費	823,781		
租税公課	900		
諸会費	9,800		
リース料	167,147		
支払手数料	2,238		
会場費	449,830		
雑費	94,940		
謝礼	257,000		
映画上映料	120,681		
その他経費計	6,821,312		
事業費計		15,845,502	

2	管理費			
	(1)人件費			
	給料手当	1,941,568		
	法定福利費	290,370		
	福利厚生費	33,100		
	人件費計	2,265,038		
	(2)その他経費			
	支払報酬	121,635		
	通信費	168,057		
	荷造運賃	126,051		
	水道光熱費	67,770		
	旅費交通費	408,071		
	会議費	11,580		
	事務用消耗品費	62,285		
	備品消耗品費	42,687		
	新聞図書費	43,700		
	印刷経費	116,091		
	地代家賃	435,456		
	租税公課	1,673,100		
	諸会費	133,272		
	支払手数料	129,199		
	貸倒損失	54,500		
	会場費	28,500		
	雑費	11,639		
	その他経費計	3,633,593		
	管理費計		5,898,631	
	経常費用計			21,744,133
	当期経常増減額			-2,630,382
	税引前当期正味財産増減額			-2,630,382
	法人税、住民税及び事業税			70,000
	当期正味財産増減額			-2,700,382
	前期繰越正味財産額			12,702,128
	次期繰越正味財産額			10,001,746

貸借対照表

特定非営利活動法人OurPlanet-TV		[税込] (単位: 円)	
全事業所		平成29年12月31日 現在	
資産の部		負債・正味財産の部	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		預り金	252,329
現金	26,485	未払法人税等	70,000
小口現金	2,472	未払消費税	311,400
ドル現金	35,595	流動負債計	633,729
当座預金	1,850,149	負債の部合計	633,729
普通預金	4,470,652	正味財産の部	
定期預金	3,058,029	【正味財産】	
現金・預金計	9,443,382	正味財産	10,001,746
商品	100,093	(うち当期正味財産増加額)	△ 2,700,382
流動資産合計	9,543,475	正味財産計	10,001,746
【固定資産】		正味財産の部合計	10,001,746
(投資その他の資産)			
保証金	1,092,000		
投資その他の資産計	1,092,000		
固定資産合計	1,092,000		
資産の部合計	10,635,475	負債・正味財産の部合計	10,635,475

財産目録

特定非営利活動法人OurPlanet-TV		[税込] (単位:円)
全事業所		平成29年12月31日 現在
《資産の部》		
【流動資産】		
(現金・預金)		
現金	26,485	
小口現金	2,472	
ドル現金	35,595	
当座預金	1,850,149	
郵便振替	(1,850,149)	
普通預金	4,470,652	
東京三菱UFJ神保町	(3,422,725)	
東京三菱UFJ春日町	(20)	
東京三菱UFJトヨタ	(902)	
郵便貯金総合	(23,294)	
三菱特別プロジェクト外口	(314,338)	
城南信用金庫九段下	(608,233)	
ペイパル	(101,140)	
定期預金	3,058,029	
現金・預金計	9,443,382	
商品	100,093	
流動資産合計		9,543,475
【固定資産】		
(投資その他の資産)		
保証金	1,092,000	
投資その他の資産計	1,092,000	
固定資産合計		1,092,000
資産の部合計		10,635,475
《負債の部》		
【流動負債】		
預り金	252,329	
報酬源泉	(26,280)	
健康・介護	(57,317)	
給与源泉所得	(71,533)	
厚生年金	(97,199)	
未払法人税等	70,000	
未払消費税	311,400	
流動負債計		633,729
負債の部合計		633,729
正味財産		10,001,746

平成29年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人OurPlanet-TV

1. 重要な会計方針
 計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。
 (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
 棚卸資産の評価基準は原価基準により、評価方法は主として最終仕入原価法によっています。
 (2) 消費税等の会計処理
 消費税等の会計処理は税込方式によっています。

2. 事業別損益の状況
 別紙参照

3. 用途等が制約された寄附金等の内訳
 用途等が制約された寄附金等の内訳（正味財産の増減及び残高の状況）は以下の通りです。
 当法人の正味財産は10,001,746円ですが、そのうち用途が特定された寄附金等はありません。
 したがって用途が制約されていない正味財産は10,001,746円です。

(単位：円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
ベネッセ子ども基金	0	1,800,000	1,800,000	0	
アクトビヨンドトラスト助成金	0	300,000	300,000	0	
LUSH JAPAN助成金	0	1,240,000	1,240,000	0	
オラクル助成金	0	600,000	600,000	0	
オランダ大使館助成金	0	300,000	300,000	0	
番組制作情報提供事業寄附金	0	2,345,936	2,345,936	0	
メディア教育支援事業寄附金	0	927,974	927,974	0	
社会貢献メディア支援事業寄附金	0	463,987	463,987	0	
合計	0	7,977,897	7,977,897	0	

4. 固定資産の増減内訳

(単位：円)

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
投資その他の資産						
保証金	1,092,000	0	0	1,092,000	0	1,092,000
合計	1,092,000	0	0	1,092,000	0	1,092,000

注記2. 別紙

事業別損益の状況

(単位：円)

科目	番組制作情報提供事業	メディア教育支援事業	社会貢献メディア支援事業	事業部門計	管理部門	合計
I 経常収益						
1. 受取会費	1,125,000	450,000	225,000	1,800,000	640,000	2,440,000
2. 受取寄附金	2,345,936	927,974	463,987	3,737,897	927,975	4,665,872
3. 受取助成金等	4,240,000			4,240,000		4,240,000
4. 事業収益	1,427,965	2,479,166	3,252,459	7,159,590		7,159,590
5. その他収益	539,241	12,000		551,241	57,048	608,289
経常収益計	9,678,142	3,869,140	3,941,446	17,488,728	1,625,023	19,113,751
II 経常費用						
(1) 人件費						
給料手当	3,883,138	1,941,569	1,941,569	7,766,276	1,941,568	9,707,844
法定福利費	580,742	290,371	290,371	1,161,484	290,370	1,451,854
福利厚生費	6,831	82,908	6,691	96,430	33,100	129,530
人件費計	4,470,711	2,314,848	2,238,631	9,024,190	2,265,038	11,289,228
(2) その他経費						
売上原価	45,423	28,861	0	74,284	0	74,284
支払報酬	0	0	0	0	121,635	121,635
通信費	429,092	0	129,600	558,692	168,057	726,749
荷造運賃	3,139	0	0	3,139	126,051	129,190
水道光熱費	135,543	67,772	67,772	271,087	67,770	338,857
旅費交通費	1,256,212	2,050	81,981	1,340,243	408,071	1,748,314
広告宣伝費	0	17,561	11,340	28,901		28,901
接待交際費	10,586	0	0	10,586		10,586
会議費	147,812	0	1,900	149,712	11,580	161,292
事務用消耗品費	4,079	1,742	236	6,057	62,285	68,342
備品消耗品費	199,281	636	3,784	203,701	42,687	246,388
新聞図書費	107,864	0	0	107,864	43,700	151,564
印刷経費	180,866	3,940	160	184,966	116,091	301,057
修繕費	155,499	0	0	155,499		155,499
WEB構築費	11,340	0	11,340	22,680		22,680
地代家賃	0	1,306,368	435,456	1,741,824	435,456	2,177,280
保険料	35,760	0	0	35,760		35,760
外注費	479,000	144,781	200,000	823,781		823,781
租税公課	300	0	600	900	1,673,100	1,674,000
諸会費	9,800	0	0	9,800	133,272	143,072
リース料	144,143	0	23,004	167,147		167,147
支払手数料	2,158	80	0	2,238	129,199	131,437
貸倒損失	0	0	0	0	54,500	54,500
会場費	449,830	0	0	449,830	28,500	478,330
雑費	11,500	83,440	0	94,940	11,639	106,579
謝礼	235,000	5,000	17,000	257,000		257,000
映画上映料	120,681	0	0	120,681		120,681
その他経費計	4,174,908	1,662,231	984,173	6,821,312	3,633,593	10,454,905
経常費用計	8,645,619	3,977,079	3,222,804	15,845,502	5,898,631	21,744,133
当期経常増減額	1,032,523	-107,939	718,642	1,643,226	-4,273,608	-2,630,382

監査報告書

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

代表理事 白石 草 様

私は、2017年1月1日から2017年12月31日までの監査を行ない、次のとおり報告する。

1、監査の方法の概要

会計監査について、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を監査した。(監査実施日2018年2月2日13:00~15:15)
業務監査については2017年9月29日(金)に開催された特別企画展「仮の住処」を「仮想体験」する～被災の記憶・継承と共感～のレセプションに参加した。


2、監査意見

(1) 活動計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財政状態を正しく示しているものと認める。

(2) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実はないと認める。

2018年2月2日

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

監 事 早 坂 教 印 

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

2018年度 事業計画

1、事業実施の方針

日本ではいま、「報道の自由」「メディアの独立」に対し、高い注目が寄せられている。その一方で、社会の中で、自分たちのメディアを育て、支えるという文化は十分浸透しておらず、「マスメディア批判」のみが、インターネット上に溢れている状況である。

韓国でも、米国でも、欧州でも、既存メディアの批判だけでは、健全なメディア環境は醸成されていない。多様なメディア、小さな声を拾い上げる小さな取り組みが、社会を豊かにしている。日本においては、市民運動の世界においても、こうした視点が薄く、一過性のブームに左右されがちだが、OurPlanet-TV を支えている多くの支援者とともに、メディア構造の変化や市民が様々な形でメディアに関与する大切さを広げてうけるような一年にしたい。

この意味で、Standing Together, Creating the Future というミッションを改めて軸にすえ、単に「ニュース」を発信するだけでなく、「文化」を発信できるように心がけていく。

2017年に大きな赤字を記録し、2018年度は、OurPlanet-TV にとっても正念場の年となる。スタッフ、理事、会員、賛助会員、寄付者、その他の様々な個人・団体との関係を強化し、抜本的な組織・体質の変化を促していく。

2018年1月

代表理事 白石 草

2、事業実施に関する事項

—コンテンツに制作—

(1) 市民の視点や人権・環境を考慮にいたった番組の制作

独自企画番組の制作および配信

2018年は、「報道の自由」「メディアの独立」など、メディアの問題を積極的に取り上げていく。また、目前に迫っている憲法改正と国民投票などについても、様々な角度から注視していきたい。さらに、天皇退位、過剰警備、監視システム、五輪、福島第一原発の被曝問題など、他のメディアが自粛しがちなテーマに力を入れていく。

福島映像祭・ふくしまのこえ

福島にまつわるものでも、取り上げられることの少ないテーマを積極的に扱っていききたい。また、「市民部門」は昨年を引き続き、映像作品だけでなく、写真など手軽なものを募集していく。関連企画のVR展は、東京以外の地域での開催を目指したい。

「ふくしまのこえ」は募集の呼びかけを強化するとともに、YouTube等にビデオを掲載している個人、団体の掘りおこしを積極的に行う。

DVD販売・自主上映

引き続き、DVD「チェルノブイリ 28年目の子どもたち」「飯舘村 わたしの記録」の販売を上げていく。「東電テレビ会議」の自主上映に関しては、関連する団体・グループ向けに個別に案内をする。

人権・環境を考慮に入れた国内外の優れた映像作品の翻訳・紹介

映像コンテンツの翻訳

- ◆ 「東電テレビ会議～49時間の記録」英訳版(100分版)の海外上映を何らかの形で実施していく。

映画紹介

ドキュメンタリー映画に限らず、多様な視点を持つインディペンデント作品を随時紹介していく。

—市民の情報発信(パブリック・アクセス)に係る事業—

(3) 子ども・市民のための映像制作教育

映像ワークショップ

【事業内容】

集客に苦戦している定期的な入門コースの日程や内容を見直す他、東京五輪に焦点を当てた1日取材体験講座を開催する。また、新たに NGO や市民団体向けの映像活用講座を開催する。受講者数を増やすため、作品上映会の開催や宣伝方法を改善する。

【実施期間】

- ・ 1月 ビデオのアトリエ 追加講座(全18回講座)
- ・ 3月 ワークショップ作品上映会
- ・ 4月 NGO や市民団体向け映像活用講座
- ・ 4月～7月 春期映像制作ワークショップ
- ・ 7月 夏の3日間集中講座
- ・ 9月 1日取材体験講座・新国立競技場建設の影で
- ・ 9月～12月 秋期映像制作ワークショップ

(4) 市民が情報発信を行うためのインフラ・機材及び交流の場の提供及び環境づくり

メディアカフェ

【事業内容】引き続き事務局スペースのデスクを貸し出すサービスを実施。「日本ビジュアルジャーナリスト協会(JVJA)」「アジアプレス」「NPO法人独立映画鍋」の3団体が入居する。定期的にミニ上映会「1コインサロン」などを企画しワークショップ卒業生や、ドキュメンタリー愛好家が集える場をつくり、スペース利用の拡大や機材レンタル、ワークショップの集客に繋げる。

【実施時期】1月～12月随時

アドボカシー活動

【事業内容】政権によるメディアへの介入が強まるなか、メディアの更なる萎縮が懸念される。あらゆる言論表現規制などに関する問題提起を行うとともに、国連から勧告のあった「放送行政の独立化」に関して、キャンペーンを展開し、メディアの民主化につながるよう取り組む。

【実施時期】1月～12月随時

(5) 社会貢献を行う行政・企業・団体への映像・メディア支援

社会貢献支援事業は、ライブ配信やウェブ構築など、新たな分野を広げていきたい。

映像コンテンツなどの受託制作

【事業内容】大手のNPOやNGOなどに積極的に営業をかけ、利益率の高い受託映像制作の案件を増やすべく取り組む。その際、クラウドファンディングによるビデオを活用したキャンペーンの立て方や遺贈ビデオの制作など、それぞれの団体(クライアント)の寄付向上などに寄与するようなプログラムを開発し提案を行っていく。

【実施時期】1月～12月随時

講師派遣

【事業内容】希望に応じて、映像ワークショップや広報セミナーの講師派遣または運営・実施を行う。

【実施時期】随時

広報セミナー・広報サポート

【事業内容】過去に実施していた「広報セミナー」の内容を変更し、プレスリリース作成の実践をメインに1日セミナーを年2回実施する。希望に応じて、講師派遣または運営・実施を行う。

【実施時期】6月・10月

—組織運営に関する事項—

組織・体制

常勤スタッフ3名に加え、必要に応じてスタッフを配置する。またインターンを積極的に受け入れる。

ファンドレイジング

年間計画を立て、更なる寄付と会員獲得に力を入れていく。会員・個人情報管理システムを導入し、ファンドレイジングの効率化を図りたい。また、新たなクレジット決済を検討し、マンスリーサポートなど「寄付のメニュー」の充実化を目指す。会員向けニュースレターは5月、11月に発行し、番組では伝えきれない活動内容を積極的に紹介していく。

活 動 予 算 書

[税込] (単位: 円)

特定非営利活動法人 OurPlanet-TV

自 2018 年 1 月 1 日 至 2018 年 12 月 31 日

【経常収益】	
【受取会費】	
正会員 年会費	230,000
賛助会員 年会費	3,000,000
【受取寄付金】	
一般寄附	3,500,000
【受取助成金等】	
助成金	3,500,000
会費・寄付・助成金 収益 計	10,230,000
【事業収益】	
番組制作情報提供	1,500,000
メディア教育支援	2,500,000
社会貢献メディア支援	8,000,000
事業収益 計	12,000,000
【その他収益】	
受取 利息	-
雑 収 益	-
その他収益 計	0
経常収益 計	22,230,000
【経常費用】	
【事業費】	
(人件費)	
給与	8,000,000
法定福利費	1,200,000
(その他経費)	
福利厚生費	30,000
通信費	500,000
荷造 運賃	40,000
水道光熱費	320,000
旅費交通費	1,500,000
接待交際費	40,000
広告宣伝費	50,000
会議費	150,000
事務消耗品	50,000
備品消耗品	50,000
機材費	500,000
新聞図書費	50,000
印刷経費	150,000
修繕費	100,000
地代 家賃	1,760,000
会場費	500,000
雑費	50,000
外注費	1,000,000
謝礼金	100,000

仕入	100,000	
ウェブサイトリニューアル	1,000,000	
映画上映料	100,000	
ワークショップ講師料	60,000	
事業費 計		17,400,000
【管理費】		
(人件費)		
給与	2,000,000	
法定福利費	300,000	
(その他経費)		
福利厚生費	20,000	
通 信 費	150,000	
荷造 運賃	150,000	
水道光熱費	80,000	
旅費交通費	500,000	
会 議 費	40,000	
事務用消耗品費	50,000	
備品消耗品費	50,000	
新聞図書費	50,000	
印刷 経費	100,000	
修 繕 費	100,000	
地代 家賃	440,000	
保 険 料	50,000	
租税 公課	500,000	
諸 会 費	150,000	
支払手数料	100,000	
雑 費	-	
管理費 計		4,830,000
経常費用 計		22,230,000
当期経常増減額		0

定款変更

1、町名変更に伴う住所の変更について

<変更前>

【事務所】

第2条 この法人は、主たる事業所を東京都千代田区猿楽町2-2-3NSビル202号室に置く。

<変更後>

第2条 この法人は、主たる事業所を東京都千代田区神田猿楽町2-2-3NSビル202号室に置く。

2、貸借対照表の公告が義務化について

<変更前>

第8章 公告の方法

【公告の方法】

第53条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。

<変更後>

第8章 公告の方法

【公告の方法】

第53条 この法人の公告は、この法人の掲示場に掲示するとともに、官報に掲載して行う。ただし、法第28条の2第1項に規定する貸借対照表の公告については、この法人のホームページに掲載して行う。

福島がいま映像で感じる

中野できょうから

東京電力福島第一原発事故から6年半となるのを機に、福島の実状を描いた映画上映などを行う「福島映像祭2017」が、16日から中野区や千代田区内で開かれる。

東中野4丁目のポレポレ東中野では16〜22日、ドイツ人女性監督の「フクシマ、モナムール」など6作品が上映される(一般1500円、3回券3600円など)。「フクシマ、モナムール」は、女優の桃井かおりさんが仮設住宅で暮らす妻を演じ、昨年のベルリン映画祭で「国際アートシニア連盟賞」を受賞した。他の上映作品は、津波で子どもを亡くした親らが自力で遺骨を探す姿を描いた



桃井かおりさん(右)が出演した「フクシマ、モナムール」の一場面



「Life 生きてゆく」の一場面

飯田橋で仮設校舎VR体験も 29日から

「Life 生きてゆく」など。29日〜10月1日には、飯田橋4丁目の三ーBRIDGEで、南相馬市立小中学校の仮設校舎を仮想現実(VR)で体験できるイベントがある(無料)。仮設校舎は今年3月で閉鎖されたが、教室での子どもたちの笑顔や声を聞ける。上映時間など詳しくは、主催の「アワー・フナネットTV」(電話03・3296・2720)に問い合わせるか、同映像祭のホームページ(<http://fukushimavoice.net/fes/fes2017/>)。(青木美穂)



VRで南相馬市にあった仮設校舎が体験できる

仮設の生活 VRで「体験」

福島映像祭

3.11 6年半被災者を知る

東京電力福島第一原発事故後の福島を伝える映画テレビ番組、市民による映像を集めた「福島映像祭2017」が16日から、東京都中野区など開かれる。事故から6年半、五回目は特別企画を予定しており、「体験」がキーワードの一つ。避難先や福島で人々は「生きてきたのか。バチヤリアリテイ(VR)」で、南相馬市立小中学校の仮設校舎を体験したり、仮設住宅の被災者に「取材」もできたりする。(井山夏子)



特別企画で体験できる福島南相馬市立小中学校の仮設校舎の生活の様子を再現したVRの場面(アワー・フナネットTV)提供

笠井千晶監督 「Life 生きてゆく」から



①震災半年後に生まれた次女(ぎりいちゃん) ②2015年12月に撮影された家族写真。被災生ちゃんと、津波で行方不明になった2人の幼い子と両親の写真と共に笠井千晶監督提供

「映像を通して生々しい現実を」

「おはよう」「おはよう」です。VR用のゴーグル型の装置を装着する。目の前に次々と登校してくる生徒たち。国語の授業、給食の時間。生徒たちの映像と音で、一緒に授業を受けているような錯覚を覚える。VRは、主催するNPO法人アワー・フナネットTVの代表理事千代田区、アワフコが事故後、仮設校舎に移った生徒たちへの取材を基に作成した。避難先から今年四月に生徒らが本校舎に戻ると、三〇年度までの授業を撮影するカメラを使って記録。映像と音で、誰もが仮設校舎を訪問できるとした。仮設住宅での「取材」は、ゲーム方式で、オンラインの研究音が実際に被災者を取材して作ったもの。ゴーグル内の映像を見ながらリモコンを操作し、映像内の写真や手紙を手にとり、被災者の体験を聞くことができる。「取材」した内容は最後に印刷され提供される。映像祭は、福島原発事故の風化

にあらためて三〇一三年から毎年実施。今回は、福島県沿岸部で津波によって行方不明になった幼い子どもたちを探し続けた父親の物語を描いた「Life 生きてゆく」(笠井千晶監督)など六作品を上映。市民部門「わたしに伝わる福島」では、埼玉県で給食調理員をしている女性らが、同県内に避難してきた被災者の人々を巡る作品を上映。上映する。監督が思いを語るトークセッションもある。

アワフコの代表理事千代田区、アワフコは「一時間たったか、重い心を開いて語り始めた人も、映像を通して語られる現実を生々しい今年に体験できる。福島島の多様な側面を垣見したい」と話している。

映像祭はポレポレ東中野で21〜27日まで。入場料は一般千五百円(学生は割引あり)など。仮設校舎や仮設住宅体験は無料で、十九日、十月一日は千代田区のアワフコ「アワフコ」で、問い合わせはアワー・フナネットTV(03・3296・2720)。